

430MHz、運用について、最終まとめ、その4

今回は移動運用について書いて見ましょう。移動運用と言っても、小規模から、本格的な運用まで色々有りまして、小規模な移動運用では、車に取り付けた無線機と車に取り付けたホイップアンテナだけでの運用でも、移動運用に変わりはありません、チョットした高台に上がれば、意外と遠くと交信できる。本格的な移動運用は、局に依っては、固定局のアンテナ設備より大々的な設備での移動運用をして居ます。固定局に、大型のアンテナが上げる事が出来ないのも、逆に移動運用に力を入れて、大型化している局も有ります。固定ではDXが不可能でも移動運用でDX通信を楽しまれて居る局も相当数有ります。又、移動運用については、年間4~5回日本列島を縦につなぐ、イベントも有って、これに併せた移動運用局も全エリアから声が聞こえて居ます。シーズンが始まって、6月には「春のダイナミックスケジュール」が有り、7月の最終土日には「430MHz、全国電波伝搬実験」が有り、8月に「夏のダイナミックスケジュール」「真夏のダイナミックスケジュール」とそして430メーリングの「DXチャレンジデー」が有り、シーズンの締めくくりには、「秋のダイナミックスケジュール」が有る。しかし乍ら、年々減少するアマチュア無線局の参加局も減少して、2017年、「430MHz、全国電波伝搬実験」が取り止めとなり、2019年メーリング主催の「DXチャレンジデー」も消滅と成った。唯一、残って居る列島を縦につなぐイベントとしては、ダイナミックスケジュールだけと成った。春、夏、真夏、秋、と年間4回と成ったが、年間同様なイベントでは、参加局もマンネリ化して来ないだろうか？主催者側では、心配もしながら、年間の開催を3回に減らす案も出て居るような、注目すべき、このイベントは、珍市、珍郡からの移動局の参加も多く、JCCやJCGを追う局には有難いイベントでも有る。こう言ったイベントも参加局が有っての事で、参加局が減少すれば、他のイベントと同じ道を辿る事に成る。イベントでJCC500、やWAJA、他DX交信で達成した局も有り、430MHzでの、1DayAJDの完成と言った貴重なイベントでも有る。他のバンドも同じ事が行われて居るが、他のバンドも同じ事が言える。430MHzだけに言える事では無いが、普段の交信だけでは、DX交信は望めない。各エリア間での定期スケジュールでも、余程のダクトや伝搬状況が良く成らない限りは、千K近いDX交信は望めない。一昔前には430MHzは、ローカルバンドと言われ、仲間同志のラグチューバンドとして使われて居たのだが、今や、8エリアから6エリアまでが交信可能と成った。メーカーの無線機の性能向上、メーカーのアンテナ開発や、アマチュア局に依るアンテナの研究開発、そして、プリアンプの性能向上の開発研究、これらは、飛ばしたいアマチュア局の多くが、知恵とスキルを出し合ってきた結果と言っても過言では有りません。マニアックな周波数にはマニアックな局が沢山居ます。全て、遠くの声を知りたい、少しでも遠くへ飛ばしたいが為の、行動や、経験を積んだ結果でも有ります。固定では聞こえないが、移動すれば、聞こえる、移動すれば遠くにつながる、今はそんな430MHzの時代でも有ります。Ssbに限らずCWやFMもモードは違えど430MHzの面白さには変わりはないでしょう。まずは上手く、コンディションを見つける事です。しかし、飛ばないときは飛ばない、チョットしたコンディションやダクトの恩恵で、日本列島がローカルに成るチャンスは、430MHzでは無いでしょうか？では、430MHzで、どんな通信が出来るのでしょうか、やり方次第では、HF帯と同じ様なDX通信が楽しめます。今回は、その通信について、話しましょう。